

二〇一六年五月一七日(参加者一七名)

碧天へ融け入るごとし花あふち	満天
雨粒の真珠びかりすバラ真つ赤	満天
万緑が覆ふ古墳や鳥語降る	満天
バラアーチ潜る園児らみな笑顔	満天
大樹影百花のバラの香りけり	わかば
枝を翳す園の要の花樽	わかば
心地よき風に誘はれ薔薇薫る	わかば
楠若葉して大空を占めにけり	よし子
純白のバラをも腐す雨にくし	よし子
薔薇を剪る園丁鉢ためらわず	よし子
眼福や五彩の薔薇に囲まれて	明日香
芳香のバラ公園を逍遙す	明日香
背比べせんとて薔薇に寄る児かな	うつぎ
風に降る古墳の杜の花樽	うつぎ
介護士の聞き上手なるばらの園	かかし
偕老の二人が潜るバラアーチ	かかし
地を覆ふ蔦瑞々し古墳山	小袖
雨晴れて小銀の珠を散らすバラ	小袖

園のバラ語りかけつつ愛でにけり	たか子
気に入りのバラの名札をのぞき込む	たか子
青空に撓む真紅の薔薇アーチ	なおこ
頬寄せてバラの香りを愛でにけり	なおこ
大輪に負けじと香るミニ薔薇	ひかり
みぎひだりよりバラ薫る遊歩道	ひかり
車椅子寄せてバラの香愛でにけり	宏虎
若葉洩る陽の洗礼や古墳道	宏虎
陵の濠の一隅あやめぐさ	ぼんこ
万緑にゲートボールの音響く	ぼんこ
園入れば満艦飾に薔薇満つる	せいじ
紅バラをこぼるる珠の雨しずく	菜々

定例会の選

二〇一六年五月一七日(参加者一七名)